

精神科中堅看護師を対象とした「疾患と治療の受け止めが困難な患者への対応」心理教育プログラムの開発と混合研究法を用いた評価

著者	根本 友見
学位名	博士（看護学）
学位授与機関	聖路加国際大学
学位授与年度	2020
学位授与番号	32633甲第201号
URL	http://hdl.handle.net/10285/00016453



氏 名：根本 友見
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第 201 号
学位授与年月日：2021 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 木下 康仁（聖路加国際大学特命教授）
副査 萱間 真美（聖路加国際大学教授）
副査 亀井 智子（聖路加国際大学教授）
副査 岡田 佳詠（国際医療福祉大学教授）

論文題目：精神科中堅看護師を対象とした「疾患と治療の受け止めが困難な患者への対応」心理教育プログラムの開発と混合研究法を用いた評価

博士論文審査結果

本研究の目的は、精神科病棟に勤務する中堅看護師 14 名を対象に、「疾患と治療の受け止めが困難な患者への対応」に関する集団心理教育プログラムを開発、実施しプログラム受講による参加者の変化とその特徴を明らかにすることである。研究方法として混合研究法収斂デザインが採用された。一回の教育セッションと 1 か月後のフォローアップセッションが実施され、質的データはセッション中の発言記録などを、また数量的データは看護師の態度（NAS）、援助的コミュニケーションスキル（TCSS）、セルフエフィカシー（GSES）に関する各尺度を使用し質問紙を用いて介入前後で測定、比較した。質的データはテーマ分析、量的データは Wilcoxon 符号付順位検定を行い、各分析後に両者を収斂させジョイントディスプレイにより、プログラム受講者別に受講後の尺度の値の変化と質的テーマ分析の結果を統合しメタ推論を行った。

結果は、NAS、TCSS、GSES とともに平均得点が改善する傾向がみられたが有意差は認めなかった。教育セッション受講によって患者に対する否定的な態度から肯定的な変化がみられた参加者（n=10）と受講によっても患者に対する否定的な態度が継続している参加者（n=4）がみられたが、肯定的な態度の変化とコミュニケーションには共感的、双方向的関係がみられた。変化の見られなかった参加者ではフィードバックにより自身のコミュニケーションの傾向や課題に気づくことができていた。

審査会では主に以下の点について指摘があった。

1. ジョイントディスプレイで何を示そうとしているのか、統合が十分できていない。
2. 事例についてプログラムの何が参加者の変化に影響を及ぼしたのかを記述すること。
3. 「態度の改善」とプログラム内容のコミュニケーションスキルとの関係を検討すること。
4. 研究目的を含め主要な表現が不統一の為意味の混乱が見られるので表記を統一すること、等。

これらに対応した修正論文が提出され、さらに①研究方法の採用理由、ジョイントディスプレイの修正、②表を整えること、③論文としての結論の追記、④文献リストの整備についての指摘があった。

そして、これらの指摘を受けて完成論文が提出され、審査委員により十分な修正がなされていることを確認した。

本論文は、心理教育プログラムを開発、実施し、組織内において微妙な立場にあることの多い中堅看護師の患者に対する態度とコミュニケーションスキルの変化の複雑さを探求した労作である。多様な尺度による数量的データ分析と質的データ分析、それを踏まえての混合研究法の採用という意欲的な研究デザインで実施された点も本論文の特徴である。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。